2023年 2月14日

2022 年度 取締役会自身による取締役会の実効性評価

株式会社 荏原製作所
取締役会

当社は、コーポレート・ガバナンスを有効に機能させるために、毎年、取締役会がどのように貢献しているかを検証し、課題を抽出し、改善を図る目的で、取締役会自身が取締役会全体の実効性について分析・評価を実施しています。

この度、2022 年度における当社取締役会の実効性について、分析・評価を行いましたので、その結果の概要を以下のとおり開示します。

１．実効性評価のプロセス

当社取締役会は、独立性を持った第三者の協力を得て、各取締役への質問票(1)を作成し、その回答結果を踏まえ、各取締役の考えを直接確認するため、独立社外取締役が務める取締役会議長がすべての取締役と個別インタビュー(2)を実施するとともに、取締役個人の自己評価とピア（相互）評価を行いました。当社取締役会は、上記の質問票・個別インタビューの結果を分析し、それに基づき 2022 年 12 月及び 2023 年 1 月の取締役会において取締役会の実効性について討議を行い、その評価と今後の対応を確認しました。あわせて、取締役会議長を除く全取締役は、取締役会議長に対する評価を行いました。

２．分析・評価結果の概要

取締役会及び委員会の現状に対する各取締役の評価は高く、取締役会、取締役会議長、独立社外取締役、社内取締役がそれぞれの役割・責務を適切に果たしていること、取締役会及び委員会については、適切な議題設定と議事運営のもと十分な議論が行われ、適切に運営されていること、昨年の課題として挙げられた事項については、取組みが進んでいることを確認しました。

取締役個人に対する自己評価および相互評価については、昨年明確化した取締役の役割・責務に基づいて評価が行われ、両評価を通して、各取締役はその責務を適切に果たし取締役会の議論に貢献していることを確認しました。なお、その評価の概要については指名委員会と共有しました。同委員会は、取締役選任に際して評価の結果も参考にしています。

以上から、当社取締役会は、取締役会の監督機能が十分に発揮され、より高い実効性が確保できていると評価しました。

一方、次項に記載のとおり、今後継続して検討・改善を続けていくべき課題があること、それらについては引き続き定期的に検証し、改善を続けていく必要があることを確認しました。

３．今後の対応

当社取締役会は、これまで進めてきた改革の継続とあわせて、以下の各項について今後継続的に取り組むことで取締役会の実効性をさらに高めていくこととします。

- 企業価値の向上に資する長期的な課題（事業ポートフォリオ、人的資本、人材育成、多様性の推進、サステナビリティに関する重要課題等）への対応に関する定期的な検証・フォローアップ・スピード感ある実行に向けた後押しの強化
- そのような課題の解決を可能とするガバナンス体制の状況についての確認・検証
- 委員会から取締役会への情報共有の範囲等についての確認・検証
- 取締役会としての資本市場との対話のあり方に関する議論の充実

以上

⑴ **「質問票の大項目」**

1. 取締役会の役割・機能
2. 取締役会の規模・構成
3. 取締役会の運営状況
4. 指名委員会の構成と役割
5. 指名委員会の運営状況（対象は指名委員会メンバー）
6. 報酬委員会の構成と役割
7. 報酬委員会の運営状況（対象は報酬委員会メンバー）
8. 監査委員会の構成と役割
9. 監査委員会の運営状況（対象は監査委員会メンバー）
10. 投資家・株主との関係

⑵ **「個別インタビューによる確認事項」**

1. 事業・経営に対する評価
2. 取締役会における議論　長期の課題に関する議論
3. 取締役会における議論　多様性の推進
4. 取締役会の議論・運営全般に対する評価
5. 社外取締役会議の状況
6. 取締役会の運営（資料・プレゼンテーション）
7. 取締役会の運営（議題の設定）
8. 取締役会の構成
9. 取締役会議長に対する評価
10. 監査委員会　構成
11. 監査委員会　取締役会との情報共有
12. 指名委員会　取締役会との情報共有
13. 報酬委員会　取締役会との情報共有
14. 資本市場との対話
15. 自己評価
16. 相互評価